

平成 26 年 8 月 8 日

牧之原市長 西原 茂樹 様

牧之原市総合計画審議会
会長 坂本 光司

第 2 次牧之原市総合計画の策定について（答申）

平成 25 年 5 月 20 日付け牧企第 28 号により諮問を受けた「第 2 次牧之原市総合計画の策定」について、慎重に審議を重ねた結果、別紙のとおり答申します。

なお、当審議会の審議過程において主要な論点となった下記事項を意見として付しますので、計画の策定や推進に当たり十分配慮されますよう要望します。

記

- 1 本総合計画は、人口減少、少子高齢化など社会経済情勢の大きな変化に対応し、持続可能なまちづくりを進めることを目的に策定されています。
このような状況を克服し、住みたい、住み続けたいと思えるまちを実現するため、市民、地域、団体、企業等と協働して推進する体制を構築し、目指す将来都市像の実現に向けて着実に前進することを求めます。
- 2 若者世代の流出が、人口減少の大きな要因となっているため、若者が魅力を感じる住環境、雇用環境、教育環境の充実を図るとともに、活力を高める取り組みを積極的に展開することを求めます。
- 3 震災リスクによる危機管理意識の高まりについては、市の人口減少が短期間で進んだ大きな要因であると考えられることから、防災対策の着実な推進により、沿岸部の市民の安全安心の向上に努めることを求めます。
- 4 本総合計画の政策全体に波及させる理念として「まちづくり」及び「土地・空間利用」に係る基本的な考え方が示されています。総合計画に位置付けられる全ての施策や各分野における個別計画にこの考え方を反映し、計画的な推進が実現されることを求めます。

5 基本計画には、基本構想に位置付けられる重点戦略に基づき、計画期間内において重点的に推進する重点プロジェクトが設けられています。

選択と集中による経営資源の重点投入や市全体で推進する体制の構築などにより、当該分野に係る施策が優先的、総合的、重点的に推進されるよう求めます。

6 基本計画に設けられた成果指標については、毎年の実施計画の進捗管理の中で達成状況を管理し、実施計画の適切な見直しに反映するように求めます。

また、計画策定だけでなく、推進、点検評価、改善においても幅広く市民の参画を得るとともに、後期基本計画の策定に当たっては、成果指標の達成状況や社会経済情勢の変化などを鑑み、適切かつ柔軟な対応を求めます。

7 本市は、周辺市に比べて昼間人口が多いという特性があります。また、富士山静岡空港、御前崎港とそれらを繋ぐ道路網が整備されており、国内外との交通拠点が確保されています。経済のグローバル化や交流拠点の充実などを通じて、更なる交流人口の増加を図るとともに、住環境の充実や定住促進に係る取り組みを進め、定住人口の増加に積極的に取り組むことを求めます。